

広報しんぎ

「コミュニティセンター正面玄関 道路拡幅工事決定」

新座のコミュニティセンターは振興会にとっても最重要施設です。新座保育園との協議で駐車場の拡幅という形で、工事を要請してきました。

新年度には工事着手が予定できるように現在進行中です。これにより正面玄関にまっすぐに進入道路ができ、今の道路部分が駐車場として拡張されます。

長い間駐車場の不足に悩まされてきましたが、これにより少し（五〜六台ほど）ではありますが、多く駐車できます。

保育園の増床によりご迷



惑をおかけしてきましたが、少しは緩和できそうです。

また、何よりも正面玄関に道路からまっすぐ入れるという事で、見た目にも良くなり、タクシーやマイカーでの送迎などにも便利になると思います。

またこれに伴い、グラウンドへのアプローチも、ポーチから直接踊り場ができ、階段もゆったりと降りるように工夫をこらしましたので、使用しやすくなる予定です。地域の皆様の、更なるセンター活用を期待したいと思います。

新座駅前観光看板が竣工しました。

地域にとって大切な玄関口を、活気あるものにしたことの要望に、十日町市のパワーアップ事業として取り組みました。

大勢の協力の元、ようやく完成いたしました。今後の管理に費用が発生しないよう、鉄骨は亜鉛メッキを施し、塗装費用を無くしました。看板本体も多くに方の意見を取り入れ、デザインも自分達の考えで作成し

出費を最低限に抑え、基礎工事も最大限引きをお願

いして、去る2月28日に完成除幕式を行いました。

合わせて観光パンフレットも、周辺の紹介マップと合わせて作成し、これから各観光窓口に配布をいたします。

新座地域の活性化の一助となることを願って取り組

んだ、実行委員会の大勢のご協力に感謝いたします。

また、この取り組に御協力いただきました。各企業の方々に改めて御礼申し上げます、本当にありがとうございます。



道路側看板



駅前看板



市長挨拶

恒例の新座地区振興会 賀詞交歓会を実施しました。



一月一日（金曜日）に恒例の振興会主催の賀詞交歓会が実施されました。

本年は雪のない賀詞交歓会となりましたが、例年より少なめの約六十名の皆さんが来館して下さいました。

大慶院様の御祓いで、今

年一年の地区内安全、地区民の健康祈願をしていただき、有意義な時間を過ごしました。

庭野儀三郎様の天神囃、そして例年通りの福引で今年一年の運勢占いをし、それぞれが地域内の話題と笑顔に花を咲かせました。

それぞれのメ焼き

新座コミュニティ

新年一月十日（日曜日）、およそ六十名の地域住民が集まる中、年始恒例のメ焼きが行われました。



センターグラウンドは、例年であれば一メートル以上の雪があるのですが、暖冬

の影響でほとんど雪がなく地面が見えるような状態で、当番のみなさんは会場の設営に苦労されたようです。

大慶院ご住職による地域繁栄のご祈祷の後、年男達によって点火された炎は空高く舞い上がりました。参加したみなさんは、しめ焼きの炎であぶったスルメをいただき、今年一年の無病息災を祈念していました。



大慶院

一月十一日（月曜日）に、一区のメ焼きが大慶院で行われました。午前十時より



実行委員長の富井治雄さんの挨拶に続き、大慶院様のお誂れと行われ、火入れ式では一区青年会長の小林幸雄さん、今年の年男であり

ます高橋彰吉さん、中島直幸さんの三名で実施されました。一区の皆さんを中心に約百名の地域の皆さんが集まり、盛大に実施されました。二ヶ所から、天に向かってあがった大きな火柱が、今年の地域安全、住民の健康を祝うかの様な光景でした。





第三十七回 新雪ジョギングマラソン大会 全国から581名参加 2歳から80歳までが力走



第三十七回十日町新雪ジョギングマラソン大会が一月二日（土曜日）、晴天に恵まれた中で午前十時二十分にハーフマラソン・十キロ、同十時三十分には五キロ・三キロが十日町中学校脇からスタートしました。

今年の話は、最年少二歳の上瑛蓮ちゃん（小千谷市）、三歳の佐藤博音君（十日町市）、根津彩羽ちゃん（同）の三人が元気に完走した事でした。

参加者は昨年の六百人を少し下回って五百八十一人で、全国からの二歳から八十歳の老若男女が新年の走り初めを楽しみました。今回のゲストランナーは昨年同様セカンドウィンドの、阿波寄照子（あばさきひろこ）選手と七回目の真鍋未央コーチの二人でした。



最年長は八十歳の樋口之人さん（新潟市）で、みごと五キロを完走しました。大会は新座地区民中心の実行委員会、同地区振興会が中心となり運営し、餅つきやトン汁を参加者にサーブスするなど、温かいもてなしで、全国に知れ渡って

いる大会となり、年々参加者も増加しております。今年も昨年に続いて明るいスポーツの話で年が明けました。そして元気にお父さんとゴールした上瑛蓮ちゃんは、来年は五キロに挑戦すると約束してくれました。



雪像作製についてのお礼
アウト・ドア・ファミリア四クラブ
会長 小林弘幸

浅春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年も第六十七回十日町雪まつり「雪の芸術展（芸術部門）」にエントリーさせていただきました。作品名は「七夜月の願い」ストーリーは、「天の川を隔てて暮らす織姫と彦星。七夕の七月七日、一年間でこの日だけ会うことが許されています。一年ぶりの再会を待ち望んでいた二人を、水の神である龍が嫉妬し、天の川を氾濫させて妨害しようと企てますが、天の天者の天女と彦星の飼いの牛が二人を守ろうと龍に立ちむかいました。果たして二人は再会することができのでしょうか・・・。」と言うものでした。

お陰様で、十日町市議会議長賞（第二位）を取ることができました。しかしながら、今年は大変な苦労がありました。まず、暖冬小雪による雪不足です。1月中旬に製作主任（浜田さん）と、この状態では雪像づくりが難しいのではないかと、頭を悩ませておりました。十日町市は、

できる限り中止せず、ギリギリまで雪の状況を判断して決定してほしい旨の連絡もあつたそうです。最終的に参加するか否かも含め、一月三十日に打合せ会を開催、参加いただいた約二十名からは、誰一人中止したほうが良いとの意見は出ず、満場一致で今年も作製することで決定しました。

とは言うものの、まだまだ苦労は続きました。まず、雪の確保でした、東小学校体育館脇の雪をダンプカーで、数十回往復し運び入れ、その雪を投雪機で飛ばし、約六メートルの高さまで何とか積み上げました。次の苦労は暖冬による雨や風でした、単管パイプを組み立て、ブルーシートで雪像を覆い、雨により雪が解けないような工夫を試みましたが、風が強く危険な状況になった為、その日は作業中止。その後も暖かい日が続き、大変厳しい状況でした。その様な状況でしたが、十八日（木）にはある程度の形が完成し、審査日である十九日（金）には無事に完成し、午後七時半の審査に間に合うことができました。

た。完成した作品を見た時、市長賞の三連覇が達成出来るのでは！と思いましたが、今年も七和地区振興会様がすばらしい作品を完成させ、市長賞を獲得。僅差で三連覇ができませんでしたが、第二位の成績は素晴らしいと思えます。

今回はODF四Cと翔四会、他有志の計二十九名で延べ製作日数九日間、延べ作業人数一六八人で作製。女性陣の七名からは賄いをしていただき、体も心も温まりました。ありがとうございました。また、多くの皆様より陣中見舞い等をいただきました。ありがとうございました。

最後になりますが、ここ最近の市長賞獲得や、今回NST様の取材放送もあり、県内外からも多くの方々より作品を見ていただくことができました。今後も、新座地区が少しでも活気づき元気ができるように、アウト・ドア・ファミリア四クラブも頑張っていきたいと思っております。これからも応援のほど宜しくお願いいたします。皆様、本当にお疲れ様でした。



【編集後記】
記憶に無いような小雪の年となりました。寒暖の差が激しい、体調管理が難しい、昨今であります。気がつけば桜の開花宣言も目前となりまして。ただ、小雪の影響でこれからの水不足が発生しなければよいのですが！